



北海道で藪漕ぎ 北海道後志 化物山
(374.8m) (無雪期ピークハント／縦
走 / 支笏・洞爺)

by
gekiyabu 

日程：

2012年06月24日(日帰り)

メンバー：

gekiyabu

天候：

曇り

地図：



標高グラフ：

コースタイム：

12:50 林道入口 – 12:57 藪に突入 – 13:00 稜線 – 13:02 化物山 – 13:07 車
道 – 13:08 車

コース状況／その他周辺情報：

- ・ 登山道無し、登山ポスト無し
- ・ 山頂南西にある電波塔に続く林道を利用。かなり草が茂り車で進入は不可能
- ・ 化物山南斜面は一面の笹藪が続く。林道脇のみ強烈な濃さだが進むとほどほどの濃さ
で大きな問題は無い
- ・ 稜線に出ても踏跡無しで笹藪を漕ぐ

- ・ 山頂に出ると南東斜面は一面が伐採され明るい草地に変わっていた。三角点は藪と伐採地の境界付近にある
- ・ 帰りは伐採地を下る。草藪で楽々歩ける。ここを登るべきだった

写真 :



ここが林道入口



目的の林道は右に分岐する
草ぼうぼうの道。左の明瞭な道は畑に入る



林道を西に進む



ここから斜面に取り付く。
一面の笹藪



稜線目指して藪漕ぎ中



稜線に出たが笹が酷くなった



化物山山頂



東斜面はきれいさっぱり伐採されていた。ここを下る



車道から東斜面を見上げる

感想／記録 : (by gekiyabu)

この山の名前は強烈で、どんな山なのか登ってみたいくなるのも当然。地形図を見る限りでは登山道は無いが、車道から程近く、山頂直下を破線が通っているので短い藪漕ぎで山頂に達せそう。予想される藪は笹藪だ。

西側から車道をアプローチ、山頂南側で林道入りしき道を発見、倉庫のようなボロい建物が目印である。車で入ってみたが明瞭な道は畑に入ってしまった、草ぼうぼうの廃道のような道が目的の林道らしい。車で入るのは躊躇される状況なので車を置いて歩き出す。藪漕ぎに備えて長袖長ズボンにロングスパッツを装着。北海道の気温だからこそ

こんな格好が可能だが、今の時期の関東では汗だく確実だ。

草ぶれた林道を歩きながら斜面への取り付け箇所を探す、かなり笹が深く山頂直下付近では突っ込む気が起きないレベルだ。少し西に進んだところで笹が薄い箇所が登場、ここから斜面に突入する。笹は背丈の高さギリギリ程度でどうにか先が見えそう

だ。
進路をやや右に振ってできるだけ笹が薄い筋を選んで登っていく。林道脇の笹は猛烈な濃さだったが林道を離れて樹林の中では意外に密度は濃くなく、茎の太さも細くて容易に掻き分けられる。高度を上げると針葉樹の幼木が混じるようになりさらに歩きやすくなった。

傾斜が緩むと稜線に到着。やっぱり踏跡は無し。僅かに獣道があるような無いようなだが、まさか熊の道ではないだろうな！ もちろん、熊避けの鈴は腰にぶら下げていてしかも2つ。本土で歩くより盛大に音を出している。北東に向かって緩やかに高度を上げるが少し笹が濃くなったような。でも志賀高原の根曲がり竹と比較すれば問題外である。長沼辺りの里山の根曲がり竹はずっと強烈だったが、この付近は積雪量はそれほどでもないのかもしれない。

緩やかな登りを続け、目の前の樹林と笹藪が急に切れて明るい世界に飛び出した。なんと山頂の東側斜面の藪と樹林はきれいさっぱり伐採され、草地に変わっていた。三角点は伐採地と藪の境界付近にあり、フキの葉に隠れて見えなかったが白い杭が存在を示していた。山頂標識は無く訪問者はほとんどいないようだ(当たり前)。内地からの訪問者など史上初かもしれない。今回はテープ類は持参していないので目印を残さず下山。

帰りは伐採地を下る。自然に草が生えた斜面であるが、腰くらいの高さで藪とは言えないレベルだ。東斜面がこんな状態だと知っていればここを登ったのに。西からのアプローチは失敗だったか。楽々車道に到着。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>